

令和4年 第4回 市議会定例会

市長所信表明(要旨)

蕪崎市

本日ここに、「令和4年第4回市議会定例会」の開会にあたり、提出いたしました案件のうち、主なるものにつきまして、その概要を申し上げ、併せて、私の所信の一端を申し述べ、議員各位、並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

このたびの市長選挙におきまして、多くの市民の皆様のご支援を賜り、引き続き蕪崎市長として市政運営を担わせていただくことになりました。

ここに心から厚くお礼申し上げますとともに、改めて、その職責の重さを感じ、身の引き締まる思いであります。

私は、2期8年の間、一貫して「市民目線の活力あふれるまちづくり」を目指し、多くの方からのご意見を伺いながら、本市の課題一つひとつに対して、全力で取り組んでまいりました。

1期目では、市長に就任した際に掲げた「強くて美しいまち・蕪崎」、「元気で豊かなまち・蕪崎」、「夢と思いやりのあるまち・蕪崎」の3つの挑戦を実現するため、関係する事業を積極果敢に推進してまいりました。

また、2期目からは、「市民が主役の持続可能なまち・蕪崎」の1つの使命を新たに加え、防災行政無線のデジタル化や上ノ山・穂坂地区工業団地への優良企業の誘致をはじめ、子ども医療費の助成拡大、大村家住宅のリニューアルやサテライトオフィスの整備など、幅広い分野にわたる様々な施策を総合的かつ効果的に推進してきたところであります。

さらには、台風19号をはじめとする風水害や豚熱など次々と起こる危機に迅速かつ決断力を持って対応にあたりるとともに、任期半ばで直面した未曾有の災禍とも言える新型コロナウイルス感染症に対しましては、市民の皆様のご命と健康、そして、安心した暮らしを守るため、蕪崎市医師会と連携したワクチン接種体制の構築、生活応援のための給付金の支給や事業者への各種支援にスピード感を持って、取り組んでまいりました。

このほか、数多くのマニフェスト事業につきましても、概ね実施することができ、成果は着実に表れているものと確信しております。

これもひとえに、議員各位をはじめ、市民の皆様のご多大なるご支援、ご協力の賜物であると深く感謝申し上げます。

先般、日銀甲府支店が発表した県内景気判断は、「感染症抑制と経済活

動の両立が進むもとの、資源高の影響などを受けつつも、基調としては持ち直している」とされております。

一方、7月から9月期の国内総生産の速報値は、物価変動の影響を除いた実質で、前期比0.3%減、年率換算で1.2%減とマイナス成長となりました。

また、ロシアによるウクライナ侵攻を背景とした国際的な原材料価格の高騰や円安の影響などで、エネルギー・食料品等の値上げが続き、インフレに対する生活への不安とともに景気後退の懸念も高まっております。

このため、子育て世帯の家計負担の軽減を目的に18歳以下の市民を対象とした商品券を配布するとともに、事業継続等を目的に福祉関連サービス事業所等に運営費の一部を支援し、公共交通や観光関連事業者などにも支援金を交付しているところであります。

さらに非課税世帯等への価格高騰緊急支援給付金につきましては、年内の振込みを目指して、迅速な対応に努めております。

今後も、経済情勢等の変化を注視し、市民生活に与える影響などに十分留意してまいります。

こうした中、サッカーJ2・ヴァンフォーレ甲府が数々のJ1チームを撃破し、天皇杯JFA第102回全日本サッカー選手権大会で初優勝を果たしました。

多くの市民が歓喜し、夢と感動と誇りを実感する絶好の機会となり、本市では、市長特別表彰を授与したほか、庁舎などに横断幕や懸垂幕を掲示して日本一を讃えたところであります。

今後もヴァンフォーレ甲府を支援し、来期のJ1昇格とアジアチャンピオンズリーグでの活躍に期待するものであります。

さて、今後の市政運営にあたりましては、「さらに前進！『チーム葦崎』で新たなステージへ」を基本テーマとして、4つの挑戦と1つの使命をマニフェストに掲げましたので、その主な施策について申し上げます。

第1の挑戦は、「強くて美しいまち」の実現についてであります。

近年の頻発化・激甚化する自然災害は、市民生活への大きな脅威であります。

台風や局地的大雨、震災等、あらゆる事態を想定した防災・減災力の向

上を図るため、避難所等への資機材の充実に努めるほか、マイタイムラインの周知活用などを進め、自助・共助・公助それぞれの対応力を高めてまいります。

また、葦崎中央公園内の遊具等のリニューアルや住宅開発を促進させる道路整備、資源ごみ常設リサイクル拠点の設置などを進め、安心して暮らしやすい生活環境の向上に努めてまいります。

さらに、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入や住宅等の省エネ改修への支援などの各種施策に取り組み、2050年カーボンニュートラルの実現を目指してまいります。

第2の挑戦は、「元気で豊かなまち」の実現についてであります。

コロナ対策はもとより、心身の健康とスポーツ活性化への取り組みとして、保健福祉センターのリニューアル、市立病院へ訪問看護ステーションの設置をはじめ、市営新体育館の整備やスポーツコミッションなどによるスポーツを通じたウェルネスを推進してまいります。

また、第2次・第3次産業の新規事業者や農業生産法人、小規模ワイナリーの誘致、ICTを活用した新しい農業の推進などに取り組み、産業振興と特産品のブランド化を図ってまいります。

魅力ある観光施策につきましては、新府城などの歴史的遺産を紹介するガイドランス施設や大村家住宅周辺に茶室の新設を進めてまいります。

さらに、リニア開通を見据えた既存交通ネットワークの再構築等にもチャレンジしてまいります。

第3の挑戦は、「夢と思いやりのあるまち」の実現についてであります。

子どもたちは、次代を担うかけがえのない地域の「宝」です。

子どもを安心して産み育てられる環境づくりをさらに進めるため、多子世帯への学校給食費無償化や保育園の完全給食化、葦崎東保育園に代わる民営保育園の開設、子育て支援住宅の整備に向けた検討のほか、ヤングケアラーの支援、子どもの虐待防止及び貧困対策の強化など、若い世代が住みたくなるまちづくりを目指してまいります。

また、学校教育につきましては、英語教育の充実や葦崎北東小学校の大規模改修など、学習環境の整備を進めてまいります。

さらに、人生100年時代を見据え、いつまでも健康で幸せな生活が送れるよう、ICTを活用した高齢者の健康づくりや元気な100歳の健康秘訣データに学ぶ健康寿命の延伸に努めてまいります。

第4の挑戦は、「チャレンジする若者を応援するまち」の実現についてであります。

人口減少が続く中で持続可能なまちづくりを行うためには、若者の参画が重要な要素の一つでありますので、引き続きミアキスとの協働を進めるほか、ヤングライフカレッジの開講やスポーツ関連ビジネスへの参入支援など、夢に向かって挑戦する若者を応援してまいります。

1つの使命は、「市民が主役の持続可能なまち」の実現についてであります。

近年、地域の様々な社会課題を解決するための鍵として期待され、基礎自治体においても、住民の利便性向上や業務の効率化を図ることを目的としたDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進が求められております。

このため、さらなる電子申請の導入やマイナンバーカードの利活用の拡大、デジタル地域通貨導入を検討するとともに、高齢者等のデジタル弱者の支援などに取り組んでまいります。

さらに、職場と住居をセットにした移住定住対策の展開やサテライトオフィスの誘致などのほか、これまで以上にふるさと納税とクラウドファンディングの取組みを強化してまいります。

以上、4つの挑戦と1つの使命について今後のまちづくりの一端を申し述べましたが、これまでの2期8年での積み重ねを礎に、「すべての人が輝き 幸せを創造するふるさと にらさき」の実現に向け、市政運営の先頭に立ち、粉骨砕身努力する決意でありますので、議員各位、並びに市民の皆様のお一層のご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

次に、本年度の主な事業の動向について申し上げます。

10月9日に開催した「武田の里フェスタ・葦崎」は、趣向を凝らした様々な催しにより、1万人を超える来場者で賑わい、盛大に行うことができました。

また、先月26日には協賛企業各社をはじめ、葦崎市商工会や消防団のご協力を得る中で、3年ぶりに花火大会を開催することができ、晩秋の夜空に色鮮やかな大小の花を咲かせ、市民の皆様にも元気を届けることができました。

関係各位に、心から感謝申し上げますとともに、引き続き、魅力ある

イベントの企画・運営に努めてまいります。

なお、これまで、損害保険ジャパン株式会社が所有していた穂坂町長久保の研修施設が過日、「シャトレゼホテルにらさきの森」として開業いたしました。

ホテルは、216の客室のほか、研修室や会議室などを備えた本市初の大規模宿泊施設となるものであります。

既に災害時の避難所として包括的連携協定を締結しておりますが、今後はスポーツ及び観光分野などで相乗効果が発揮されることを期待しております。

次に、感染症対策の強化についてであります。

新型コロナウイルス感染症につきましては、従来株とオミクロン株に対応した2価ワクチンの接種を10月半ばから開始し、乳幼児につきましては先月から行っているところであります。

依然として、感染状況が高い水準にあり、この冬には季節性インフルエンザとの同時流行が懸念されておりますので、引き続き、蕪崎市医師会や関係団体のご協力のもと、感染拡大の防止に努めるとともに、重症化予防に向け取り組んでまいります。

次に、スポーツ活動の充実についてであります。

先日、スポーツ庁長官から「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を県下では、初めて本市が受賞いたしました。

これは、本年3月に設立した「蕪崎市スポーツコミッション」が目指す「ウエルネスの実現まちづくり計画」への取組みが評価されたものであります。

今回の受賞を励みに、市民の健康・生きがいづくりとスポーツを通じた地域の活性化に努めてまいります。

なお、市営新体育館及び総合運動場整備・運営事業につきましては、株式会社安藤・間グループが新たに設立した特別目的会社との事業契約に係る議案を今議会に提出しております。

今後は、設計作業などを具体化していく予定であります。

次に、地域文化の創造・継承についてであります。

先月、縄文ドキドキ総選挙^{にせんにじゅうに}2022で日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の構成資産である、円野町石之坪遺跡出土の土偶「ミス石之

坪」が第1位を獲得いたしました。

「いのち」を宿した縄文人の世界観が詰まった文化財を、地域の宝として後世に伝えるとともに、子育てや観光施策とかけ合わせた事業展開により、市内外への魅力発信と地域活性化へ繋げてまいります。

次に、子育て支援の充実についてであります。

大学、専門学校等に在学する経済的に困難な学生のさらなる支援を行うため、明年度から育英奨学金の貸付額を現在の年額24万円から60万円に拡充し、多子世帯を中心とする子育て環境の整備のほか、本年4月に創設した「奨学金返還支援事業」との相乗効果により、将来を担う若者の定住促進を図ってまいります。

次に、道路の整備についてであります。

菟崎駅前の周辺整備につきましては、昨年度、現状を把握するための交通量調査と整備イメージ図によるアンケート調査を行いました。

この調査結果をもとに県警察をはじめ、関係機関との協議が完了いたしましたので、地下道の撤去に伴う横断歩道新設及び道路整備工事を実施し、地域住民の安全と利便性の向上に努めてまいります。

次に、工業の振興についてであります。

穂坂地区工業用地造成事業の第1工区につきましては、10月から本格的な造成工事を施工しており、第2工区につきましても、令和5年度中の工事着手を目指し、順次必要な手続を進めております。

引き続き、地権者や地域の皆様のご理解とご協力を得る中で、鋭意、事業に取り組んでまいります。

次に、効率的な行財政運営の推進についてであります。

やまなし県央連携中枢都市圏につきましては、去る7月26日に「連携中枢都市宣言」が行われ、明年度から具体的な事業を実施するため、今議会に甲府市との連携協約の締結の協議に関する議案を提出しております。

引き続き、甲府市をはじめとする9つの市町と持続可能な地域社会の構築に向け、共通課題の効果的な解決に取り組んでまいります。

次に、菟崎市行政組織の再編についてであります。

母子相談、保育、子育てを一元的に担うため、明年度から「こども子育て

て課」を創設し、支援体制を強化することといたしました。

今後は、市民への周知を行うとともに、よりきめ細やかな施策の推進に努めてまいります。

次に、本日提出いたしました審議案件につきましては、条例等の改正のほか、予算につきましても補正の必要が生じたので対処いたしましたところであります。

これにより、今議会でご審議をお願いする案件は、

予算案件	4件、
条例案件	7件、
その他案件	2件であります。

このうち、一般会計補正予算案について、その概要を申し上げます。

今回の補正につきましては、市民税、固定資産税の増額補正並びに給与勧告に基づく職員給与費や燃料、電気料金の高騰による増額補正のほか、緊急性を生じた諸事業を中心に編成したところであります。

先ず、議会費につきましては、給与勧告による職員給与費16万円を増額補正しております。

次に、総務費であります。

燃料、電気料金の高騰により、庁舎管理費に448万6千円、市民交流センター管理運営費に371万3千円を増額するとともに、明年度からの育英奨学金貸付額の拡充に備え、育英奨学基金積立金に1億円を追加計上するなど、総額1億2,708万3千円を増額補正しております。

次に、民生費であります。

令和3年度事業費の確定に伴う国庫支出金等返還金として、7,275万8千円、妊婦・子育て家庭が、より安心して出産、子育てができるよう支援するため、出産・子育て応援事業費に2,801万円、電気料等の追加経費として、保育園運営費に254万4千円、健康ふれあいセンター管理運営費に500万円を増額するなど、総額1億1,079万6千円を増額補正しております。

次に、衛生費であります。

プラスチック回収の開始に伴う資源ごみ常設リサイクル拠点の開設に

向けた整備経費等として、資源リサイクル推進事業費に188万7千円を追加し、下水道認可区域外の浄化槽設置の増加を見込み、浄化槽設置促進事業費を204万円増額するなど、総額316万5千円を増額補正しております。

次に、労働費であります。

施設管理経費の増により、勤労青年センター管理運営費6万3千円を増額補正しております。

次に、農林水産業費であります。

就農者や農業後継者の増加に伴い新規就農者支援事業費に175万円を追加計上し、農道等水路の応急的な修繕委託経費として、小土地改良事業費に253万6千円を増額するなど、総額869万4千円を増額補正しております。

次に、商工費であります。

小規模事業者の店舗改修や新規起業者の増加により、中小企業等支援事業費に48万8千円、起業支援補助事業費に260万9千円を増額するとともに、グリーンロッジ管理運営費に62万7千円の修繕費を追加計上するなど、総額488万9千円を増額補正しております。

次に、土木費であります。

社会資本整備総合交付金の内示額の減に伴い、市道穂坂97号線道路整備事業費のほか、交付金充当道路整備事業費を減額する一方、市道等水路の応急的な修繕委託経費として、道路橋梁維持事業費に1,383万7千円、葦崎駅前の周辺整備に係る経費として、市単独道路整備事業費に5,095万8千円を追加計上するなど、総額5,035万3千円を増額補正しております。

次に、消防費であります。

電気料金の高騰により、消防施設維持管理費を21万4千円、災害対策事業費を44万9千円増額する一方、常備消防に係る負担金の確定により、峡北広域行政事務組合負担金を1,427万9千円減額し、総額1,361万6千円を減額補正しております。

次に、教育費であります。

小中学校運営事業費、文化ホール管理運営費等の電気料を増額するとともに、菰崎小学校及び菰崎西中学校の普通教室空調設備の改修費として、小学校施設管理事業費に1,434万4千円、中学校施設管理事業費に1,433万3千円を、穴山体育館建設予定地周辺の土砂災害防止対策に係る設計業務経費等として、地域体育館建設事業費に2,276万2千円を追加計上するなど、総額8,363万3千円を増額補正しております。

次に、公債費であります。

市債の繰り上げ償還を行うため、長期債元金償還金を9,309万2千円増額補正しております。

以上の結果、一般会計補正予算額は、4億6,831万2千円を増額補正となり、現計予算額は165億6,547万5千円となります。

次に、企業会計の補正予算案であります。

病院事業会計につきましては、医業収益の減収等により、病院事業収益を1億2,002万4千円減額補正し、給与勧告に基づく給与費が増額となる一方、材料費の減額等により、病院事業費用を245万2千円減額補正しております。

また、医療機器の導入経費として、資本的支出を171万3千円増額補正しております。

水道事業会計につきましては、加入金の増並びに電気料金の高騰による動力費、給与勧告による給与費等の増により、収益的収入及び支出を1,247万9千円増額補正しております。

下水道事業会計につきましては、管渠の維持管理に係る電気料金の増を見込む一方、人事異動による給与費等の減により、収益的収入及び支出を420万2千円減額し、資本的収入及び支出を99万9千円増額補正しております。

その他の案件につきましては、いずれもその末尾に提案理由を付記しておりますので、よろしくご審議のうえ、ご議決あらんことをお願い申し上げます。

結びにあたり、議員各位におかれましては、寒冷のみぎり、ますますご健勝にてご活躍されますことを衷心よりご祈念申し上げまして、私の所信といたします。

令和4年12月8日

葑崎市長 内藤久夫